

第1回高野口中学校移転改築検討委員会
会議録

開催日時	令和8年1月21日(水)19:00~21:00
開催場所	橋本市教育文化会館4階 第5展示室
出席者 (委員)	廣岡委員、北澤委員、前田(昌)委員、木村委員、飛島委員、向委員、角谷委員、井澤委員、村上委員、前田(泰)委員、北浦委員、森本委員 【出席委員12名】
欠席者	なし
事務局	橋本市教育委員会 今田教育長 教育委員会事務局 岡教育部長、阪口参事 同 丸山教育総務課長、裏川教育総務課長補佐、増谷施設係長 (株)東畑建築事務所:高木、花村、中村、神谷、加藤(まち楽房(有))
次第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 正・副委員長選出 4. 諮問 5. スタッフ紹介 6. 委員紹介 7. 経過説明 8. 意見交換 9. 閉会
資料	(当日配布資料) ・諮問書 ・第1回橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会資料一式
公開/非公開	公開
傍聴者	3名
その他	なし

【議事要旨】

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1. 開会	
事務局	<p>本日の会議は、橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会条例第6条第2項の規定により、委員12名中12名のご出席いただいており、過半数の出席がありますので会議は成立していることを報告します。</p>
事務局	<p>橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会条例第7条により「会議は公開する」となっていますので、公開の会議としてよろしいでしょうか。</p> <p>(委員了承)</p> <p>本日の傍聴人は3名です。</p>
2. 市長挨拶	
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・忌憚のないご意見をいただきたい。 ・建て替えについては非常に時間がかかって申し訳なく思っている。 ・国の補助金の問題もあり内部でプロジェクトチームをつくりながら検討をしてきた。 ・今回は場所を決めていただいて、それからどんどん進めていく。 ・文科省とも連携しながら、予算確保できるよう走っていく。皆さんのご協力をお願いしたい。
3. 正・副委員長選出	
	<p>検討委員会の委員長及び副委員長の選出を行います。</p> <p>正副委員長は、橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会条例第5条により、委員長、副委員長1名ずつ選任されるものです。</p> <p>委員長、副委員長の選任については、委員の互選により選出することとしていますが、事務局案として、委員長に高野口中学校PTAの木村譲治さん、副委員長に高野口町青少年健全育成会の北浦健司さんにそれぞれお願いさせていただけたらと思っております。ご異議なければ、事務局案のとおりとさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員承認)</p> <p>(正・副委員長あいさつ)</p> <p>率直なご意見、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>非常に想いのある町ですので、しっかりと論議を重ねていきたいと思っております。</p>
4. 諮問	
5. スタッフ紹介	
6. 委員紹介	
7. 経過説明	

<p>事務局</p>	<p>現在の高野口中学校について建築年度は昭和 56 年から 58 年、鉄筋コンクリート造の 3 階建てで、敷地面積は建物部分が 17370 m²。運動場他が 61682 m²。令和 7 年 4 月時点での生徒数は、1 年生が 74 人、2 年生が 60 人、3 年生は 61 人。</p> <p>耐力度調査は、建物が地震や風に耐えられるか、建物が、老朽化していないか、建っている場所の立地条件がどう影響するか確認するための調査。</p> <p>建物がすぐに崩れる可能性があるかどうかを判断するものではない。</p> <p>建物の耐力度調査結果は全 6 棟のうち 3 棟を調査し、4860 点、4860 点、4659 点となった。耐力度調査の点数が 5000 点以下が別敷地移転の交付金の対象となる。</p> <p>高野口中学校を街中へ！の会から、高野口中学校を安心・安全な街中へ移転することに関する要望書を令和 6 年 11 月 18 日に 8403 筆の署名とともに受理した。</p> <p>高野口中学校移転構想に関する庁内プロジェクトチームを課題に対して専門的な見地から意見や助言を行うため設置し、令和 6 年 10 月から会議を計 7 回開催した。</p>
<p>東畑建築事務所</p>	<p>基本計画の策定に向けて、基本計画全体のスケジュールについては 9 月中旬までが全体のスパンとなっている。</p> <p>基本計画の中で、大きく 2 つのステップに分かれる。ファーストステップとして、敷地の選定、候補地を確定するのが今年度になる。来年度にセカンドステップとして基本計画の中で与条件を整理して、コンセプト、素案を作る。</p> <p>並行して、一般公募型のワークショップを随時開催し、広く市民の方々、利用者の皆様の意見を取り入れながら、みんなで作っていく形としていきたい。</p> <p>候補地は 2 つある。</p> <p>A 候補地として、旧応其中学校の跡地。</p> <p>B 候補地として、応其小学校隣接地。</p> <p>候補地を考える上での 5 つのポイントとして、まちからみてどこにあるか、アクセスしやすいか、どんな場所、周囲の状況は、どんな使い方ができそうかの 5 点を挙げた。</p> <p>1 点目、まちからみてどこにあるかという視点で、A 候補地は、比較的中心部にある。B 候補地は、少し東側にずれた場所にある。</p> <p>次に、子どもの人数からみてみると、応其地区は高野口のなかでも子どもの人数が多く、なかでも名古屋、伏原地区が多く、候補地 B が子どもの数の中心に位置するという見方ができる。</p> <p>2 点目、アクセスのしやすさについて、今回は車目線で検討した。A 候補地は、国道 24 号線に対して、敷地左側の道路からアプローチできる。また、弯曲した西側道路からもアプローチできる。B 候補地は、国道 24 号線から直接アプローチできる。また、南側の道路を通してアクセスするようなアプローチになっている。</p> <p>3 点目、どんな場所かについては、A 候補地は、海岸段丘地形ということもあり、東側の道路は北に向かって緩やかに傾斜している。西側の道路も、弯曲しながら緩やかに傾斜して下っていくような道。北側の道路は平坦地で住宅地の比</p>

	<p>較的静かな環境。敷地内から外を見ると、段丘地形ということもあって、南側の一段下がったところに住宅が建っている。その背後には山並みがしっかりと見えるような伸びやかな場所になっています。グラウンドから北側を見ると、土地の北側の一段地盤が高い位置に住宅が立ち並んでいます。さらにその背後には、北側の山並みがしっかりと見えるような伸びやかな場所になっている。</p> <p>B 候補地は、国道 24 号線は比較的、車通りの多い道になっている。東側道路は幅員が 2.2 メートルから 2.5 メートルと細い道になっている。南側は、新しく住宅が立ち並んでいるような場所になっている。前の道は、静かな住宅地の道路。北側の伸びやかな山並みが見えるような場所になっている。</p> <p>4 点目、周辺の状況として、防災面について、A 候補地も B 候補地も、土砂災害や紀の川の浸水については、どちらも範囲外というような場所になっている。</p> <p>子ども目線で周辺の道の状況について見ると、A 候補地の方は敷地北側の東西の道路が、30 キロ制限となっている。ただしこの道は、歩道がないような場所になっている。</p> <p>B 候補地は、国道 24 号線は歩道が両側あり、敷地の前のところで横断しようと思うと、北西側のところは歩道橋で渡るような場所になっている。一方、北東側の交差点は横断歩道で渡る場所となっている。南側の道については 30 キロ制限がかかっている道路になっている。</p> <p>5 点目、どんな使い方ができそうということで、A 候補地は、北側に校舎を配置した場合、明るく開放的な校舎とグラウンドができそうな感じになる。西側に校舎を配置して、東側にグラウンドにした場合、校舎とグラウンドそれぞれから南北の山並みがのぞめる学校になる。東側に校舎を配置した場合は高校に向かい合うような形になり、高校の雰囲気を感じられると言われるような学校ができそう。</p> <p>A 候補地は、様々な配置のバリエーションができそうであり、また、まとまったスペースがあるので、伸びやかな学校ができるかなという感じがする。</p> <p>B 候補地は、今あるグラウンドをできる限り確保したうえで、北側のところに校舎を配置するようなことが考えられる。その場合、小学校と中学校がグラウンドを共有するといったような使い方ができるのではないかな。B 候補地は配置でできる場所については制限があるが、小学校とうまく連携したような使い方ができるような学校になるかなという印象がある。</p> <p>ここ長く住まれて熟知している皆さんということで、他にもこの候補地を考えるうえでの視点があると思いますので、今日は一緒に考えていきたい。</p>
8. 意見交換	
	<p>(委員ペアになりて意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両方、避難しやすいことは確信した。 ・B 候補地では高野口小学校地域の人が通うのに賛成してくれるか不安がある。 ・他地域で小中一貫も進めようとしているので、未来の子供の人数まで見据えて考えたほうがよいのでは。 ・A 候補地の配置にバリエーションは魅力的。部活のときだけでも高校を借りることができれば良い。 ・子ども目線にたって学校を選ぶことが大事。

	<ul style="list-style-type: none"> ・B 候補地になった場合、高野口小学校地域の人からクレームがでないか。 ・信太地域は学校が閉校したためもっと遠くなる。信太地域は3地域あるなかで中心地である A 案にしてあげるのがよいのでは。 ・地震のことを考えて高層でなく人数も減ってきており平屋で充分ではないか。 ・校舎の災害を認識した建物にしてほしい。 ・地震に耐えられる安心できる建物にしてほしい。 ・B 候補地は、土地の形がおかしい。国道沿いに建てることで学習面でどうか。近くに商業施設もあり心配。逆L型に建てて大丈夫か。 ・A 候補地はバリエーションもある。ずっと懸念している通学の問題として道幅が狭いが、今後考えて、クリアしていけるのでないか。 ・A 候補地のほうが中心。どっちにしても問題しかない。30年40年をこれから先を考えてつくる必要がある。A 案が作りやすいのでないか。 ・子どもも大人も安心できる場所としてほしい。 <p>これまでの経験上で、後発になるので、砂ぼこりやボールの飛び出し、保護者の送迎による交通の面、体育祭などの騒音など、周囲からの苦情対応が懸念だが、交通の面さえクリアできれば A 候補地問題少ない。災害に強い学校を。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B 候補地は小学校と隣接になることで教育的効果がA候補地と違うところで期待できる。周りの理解がキーワードになる。 ・短時間で話をするのが難しかった。情報がないなかで疑問点として、A 候補地は狭いのではないか。B 候補地は小中一貫をめざしているのか教育委員会に聞きたい。 ・子どもの人数も多くないので、人数に合わせてA候補地に生活しやすく、耐震にも対応した校舎を建ててほしい。 ・B 候補地では、小中一貫を念頭に置いていると思うが、小学校側も中学校側もあまりメリットを感じないのではないか。手狭になって両方遠慮することになるのでは。応其小学校だけが小中一貫になるのはいかがなものか。 ・小中一貫よりは中高連携。高校のグラウンドやプールが使えるのではないか。県教委と交渉してほしい。 ・B候補地は狭いというものもあるので用地を買収して少しでも校地を拡げて連携しやすいように考えてほしい。 ・子どもを中心に、安全に、と小中一貫よりも中高連携ということで、比べれば高校との連携のほうが想像しやすい。
9. 閉会	
教育長	<p>皆さまの熱い思いが伝わってきた。</p> <p>次回から具体的な議論にしていきます。</p> <p>今日の共有した情報をもとに、皆様方のお知恵をいただきまして、移転改築用地の決定をしていきたいと考えている。</p>